

施策番号	2204		
施策名	無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出		
概要	美しい京都の町並みを形成するため、景観形成がとくに必要な地区で無電柱化を推進するほか、舗装等について道路空間のデザインに配慮した整備を行う。		
担当局・部室	建設局・道路建設部	共管局・部室	
上位政策	22 景観		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市歴史的風致維持向上計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	歴史まちづくり法による道路修景整備地区の無電柱化完了延長(km)	d	e	0.05	0	0.458	0%	e	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		d	e	客観指標総合評価				e	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答						
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思 わない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価
1	大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えている。	c	c	78	189	192	110	81	650	c
				12.0%	29.1%	29.5%	16.9%	12.5%		
2	-	-	-							-
3	-	-	-							-
4	-	-	-							-
5	-	-	-							-
		c	c	市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

D	施策の目的があまり達成されていない						
	重み付け	☐ 客観指標	e	☒ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 町並みの美しさは実感されてこそ価値があるので、市民生活実感評価を重視する。						平成30年度	D
(原因分析)客観指標総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・無電柱化事業は多額の費用を要すること、道路修景整備地区以外の路線でも事業を実施していることなどから、客観指標である「道路修景整備地区の無電柱化完了延長」が目標を達成できなかったため、昨年度に引き続きe評価となった。						平成29年度	C
(原因分析)市民生活実感調査総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・無電柱化事業については、整備の進捗率が低いことから、「無電柱化により美しい公共空間が増えている」と実感した回答が4割程度にとどまったと考えられ、昨年度に引き続きc評価となった。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	無電柱化事業	573,734	1,439,854	—	建設局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・景観に配慮すべき地域での無電柱化事業には、1km当たり約7～9億円という非常に多額の費用を要することから、今後も、国に対し、必要十分な予算確保のほか、道路整備に係る補助率の引上げなど、景観に配慮すべき地区における補助制度の拡充などについて、働き掛けていく。

・また、無電柱化事業の推進にあたっては、地域住民の事業に対する協力が必要であることから、地域住民や沿道関係者が参画する地域団体等と連携して、事業への理解を醸成するとともに、地元主体の円滑な合意形成の取組を進める。

・さらに、無電柱化に伴い、電柱に共架されている変圧器を地上に設置する必要があるが、地上機器の設置には大きなスペースを要するため、沿道住民の方々の合意を得るのに時間を要している。引き続き、沿道住民との緊密な対話を継続しながら、企業に対して地上機器のコンパクト化を要望するとともに、国が検討している低コスト手法を取り入れた無電柱化を推進するなど、合意が得られやすい環境を整備する。

施策名	2204	無電柱化等による魅力あふれる道路空間の創出					
指標名	歴史まちづくり法による道路修景整備地区の無電柱化完了延長（km）						
担当課	道路環境整備課		連絡先	2 2 2－3 5 7 0			
1 指標の説明							
地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）に基づき策定した「京都市歴史的風致維持向上計画」に記載のある道路修景整備地区での無電柱化完了延長							
2 指標の意味							
歴史的な町並み景観に配慮した美しい公共空間の創出状況を示す指標							
3 算出方法・出典等							
算出方法：道路修景整備地区全4地区の無電柱化に係る総事業費と毎年の執行事業費との割合を整備延長に換算して算出（（執行事業費/総事業費）×計画総延長） 出典：事業担当課調べ							
4 数値							
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	目標値			
				数値	根拠	達成度	
数値	0.05	0	0.05km減	0.458	令和2年度目標値（4.58km）を達成するために当該年度に達成すべき数値	0%	
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
単年度目標に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満							
6 基準説明							
当該指標については、電線管理者や地元の合意形成・協力が必要不可欠であることから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。							
7 評価結果							
平成29	平成30	令和元					
d	e	e					